臨床工学部

業務内容

臨床工学技士は、1987年に制定された『臨床工学技士法』に基づく国家資格です。

医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保 守点検を業とする医療機器の専門職種です。院内では 通称ME(Medical Engineer)と呼ばれていますが、 CE(Clinical Engineer)と呼ばれることもあります。

現在の高度先進医療において使用される医療機器や生命維持装置は、日進月歩、絶えず改良・開発が行われ、次から次へと新しい器械が世に出てきています。そのため現場ではより安全で確実に機器の操作が求められるため、我々のような専門的な技量・知識を持つ臨床工学技士が 24 時間体制で院内に従事しています。現在、当院では 40 名の技士が在籍しており呼吸・循環・代謝、様々な分野で活躍しています。主な業務範囲は、血液浄化・手術室・心臓カテーテル室・内視鏡・高気圧酸素・ICU・ユーティリティー設備の管理・医療機器管理です。

業務実績

1.種山かよ子,第 47 回日本血液浄化技術学会学術大会・総会,COVID-19 陽性患者に対する血液透析,2021.4.

2.種山かよ子,第 47 回日本血液浄化技術学会学術大会・総会,タンザニアにおける血漿交換の技術支援,2021.4.

3.種山かよ子,第31回日本臨床工学会,COVID-19陽性 患者に対する血液透析,2021.5.

4.岩村庸平,第 31 回日本臨床工学会,Impella+V-A ECMO 導入下において自己肺による酸素化が得られず V-VA ECMO に移行した 1 症例,2021.5.

5.石井貴彰,第 31 回日本臨床工学会,Mitra Clip の際に 心損傷を合併症し体外循環を確立して修復術を施行 した 1 例,2021.5.

6.種山かよ子,第 66 回日本透析医学会学術集会・総会, タンザニアにおける血漿交換の技術支援,2021.6.

7.满岡宏介,日本医工学治療学会第38回学術大会,植込

み型除細動器移植患者の自然分娩において遠隔モニタリングの活用を模索した1例,2021.6.

8.古川秀太,日本医工学治療学会第 38 回学術大会,体外循環時に人工心肺及び静脈貯血槽の交換を想定した 人工心肺回路の作成,2021.6.

9.満岡宏介,第 67 回日本不整脈心電学会学術大会,Cryoballoon Ablation 施行時におけるシングルストップとダブルストップについての比較検討,2021.7.

10.岩村庸平,第 11 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会,冠血流予備量比値の違いによる経カテーテル大動脈弁置換術の周術期における心事故発生の検証,2021.8.

11.岩村庸平,第 11 回日本経カテーテル心臓弁治療学 会学術集会,ハートチームにおける臨床工学技士のや くわりと周術期における展望,2021.8.

12.岩村庸平,第 4 回神奈川県臨床工学会(座長),V-A ECMO トラブルシューティング,2021.11.

13.満岡宏介,第 4 回神奈川県臨床工学会(シンポジウム),湘鎌 style〜湘鎌心カテ室と CE の業務について〜,2021.11.

14.松井章悟,第 4 回神奈川県臨床工学会,V-A ECMO ハンズオンセミナー~臨床で役立つ V-A ECMO の基礎~,2021.11.

15.日高敬介,第 10 回徳洲会臨床工学部会関東ブロック臨床工学セミナー,神奈川県臨時医療施設における酸素ガス管理の関わり,2022.1.

16.松井章悟,第 6 回 Kanagawa Younger Perfusion Association,V-A ECMO に対し、緊急的にサクション 回路を追加し管理を行った一症例,2022.1.

17.石井貴彰,第 49 回日本集中治療医学会学術集会,呼吸、循環状態の変動が著しい症例に対し V-VA ECMO + Impella が有用だった一例,2022.3.

その他の活動

【学生実習受入れ】

- 1.東京工科大学
- 2.帝京平成大学

臨床工学部

- 3.神奈川工科大学
- 4.読売理工医療福祉専門学校
- 5.東京医薬看護専門学校

【依頼講演・講師】

1.松井章悟,神奈川県臨床工学会 (ハンズオン講師) ,V-A ECMO ハンズオンセミナー〜臨床で役立つ V-A ECMO の基礎,2021.11.14

2.松永誠吾,神奈川県臨床工学会 (ハンズオン講師),ペースメーカー (Medtronic),2021.11.14

3.種山かよ子,岐阜県臨床工学技士会 JACET 血液セミナー (講演),透析患者の足を守る~臨床工学技士の立場から~,2023.1.16

展望/抱負

- 1. 安心、安全な医療
- 2. 挑戦!
- 3. 旗艦病院として責任
- 4. 教育(学生から STAFF まで)
- 5. 知識・技術の研鑽